

1 新潟県農業を取り巻く情勢

第 1 新潟県農業を取り巻く情勢

1 国際的な動き

(1) 世界の食料の需給動向

～今年度の穀物の期末在庫率は 26.7% で、前年より 1.5 ポイント低下する見込み～

表 1 - 1 - (1) 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

年度	生産量	消費量	期末在庫量	期末在庫率
	(億t)	(億t)	(億t)	(%)
2000/01	18.5	18.7	5.6	30.3
2001/02	18.8	19.1	5.4	28.1
2002/03	18.2	19.1	4.5	23.3
2003/04	18.7	19.5	3.6	18.6
2004/05	20.4	19.9	4.1	20.7
2005/06	20.2	20.3	4.0	19.5
2006/07	20.1	20.5	3.5	17.1
2007/08	21.3	21.1	3.7	17.5
2008/09	22.5	21.7	4.5	20.7
2009/10	22.5	22.2	4.8	21.8
2010/11	22.1	22.4	4.5	20.3
2011/12	23.4	23.3	4.7	20.1
2012/13	23.0	22.9	4.8	21.0
2013/14	25.2	24.2	5.8	24.1
2014/15	25.6	24.7	6.8	27.5
2015/16	25.2	24.6	7.4	30.1
2016/17	26.7	26.1	8.0	30.8
2017/18	26.2	26.0	8.2	31.7
2018/19	26.3	26.4	8.2	30.9
2019/20	26.8	26.7	8.2	30.8
2020/21	27.3	27.5	8.0	29.1
2021/22	28.0	28.0	8.0	28.6
2022/23	27.6	27.7	7.9	28.6
2023/24	28.2	28.2	8.0	28.2
2024/25	28.2	28.5	7.6	26.7

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」「PS&D」

出典：農林水産省 HP (http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_zyukyu_kakaku/index.html)

注：期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

注：米国農務省の 2024 年 3 月時点での見通しであり、毎月更新される。

表 1 - 1 - (2) 世界の人口の見通し

年	世界の推計人口
2020 年	78.4 億人 (100)
2030 年	85.5 億人 (109)
2050 年	97.1 億人 (124)

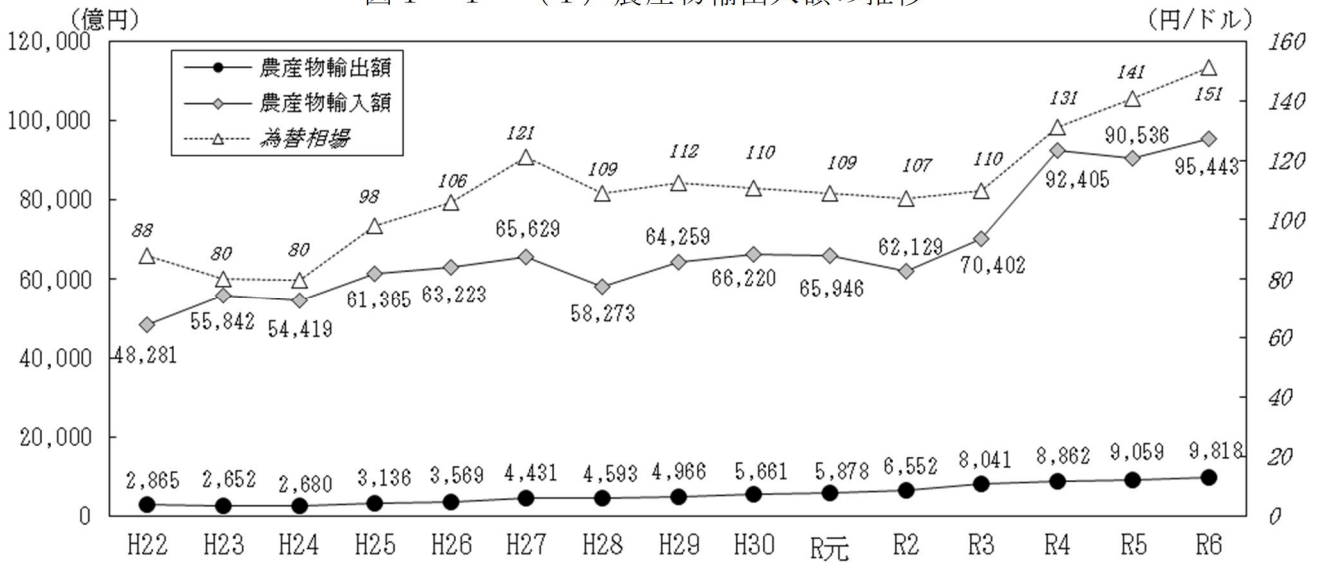
資料：総務省統計局「世界の統計 2024」(<https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>)

注：() は 2020 年を 100 とした指数

(2) 我が国の農産物の輸出入状況

～ 我が国の農産物貿易は輸出額が増加傾向で、輸入額は近年上昇傾向 ～

図1-1-(1) 農産物輸出入額の推移



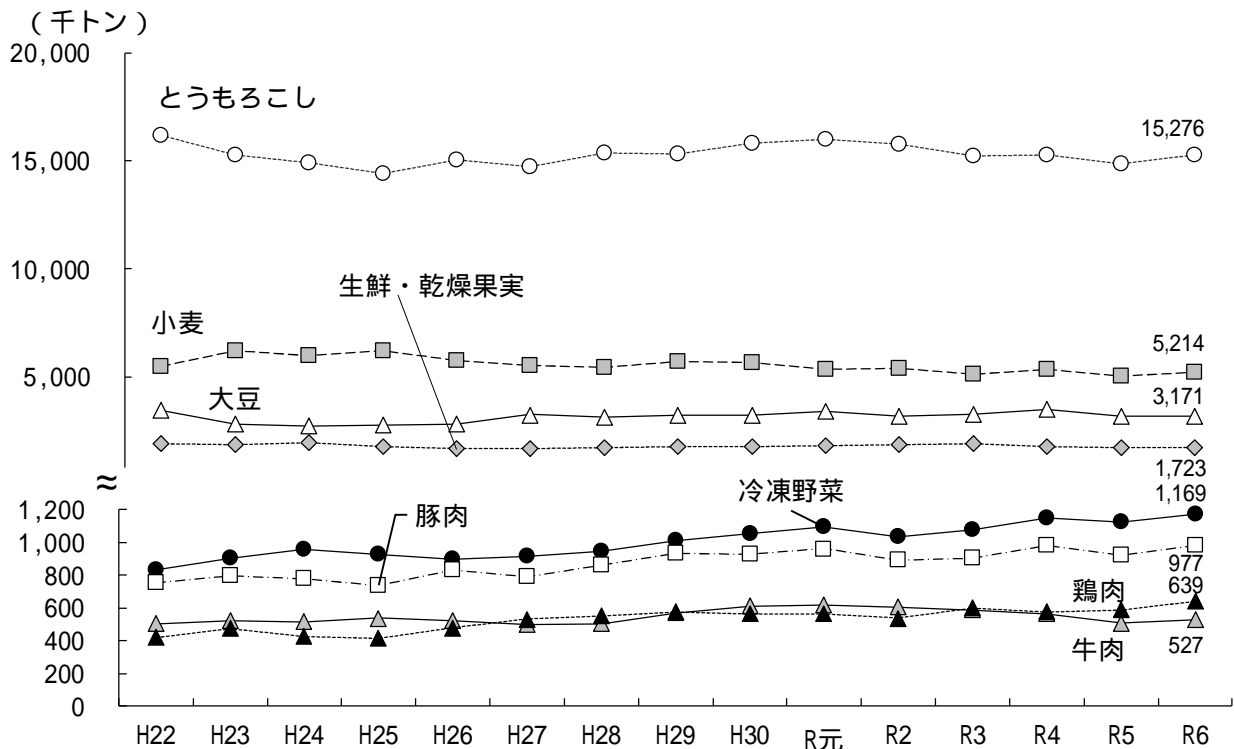
資料：農林水産省「農林水産物輸出入概況」

(<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>)

日本銀行時系列統計データ「為替」(<https://www.stat-search.boj.or.jp/>)

注：アルコール飲料、清涼飲料水、菓子（米菓を除く）、たばこ等を含む

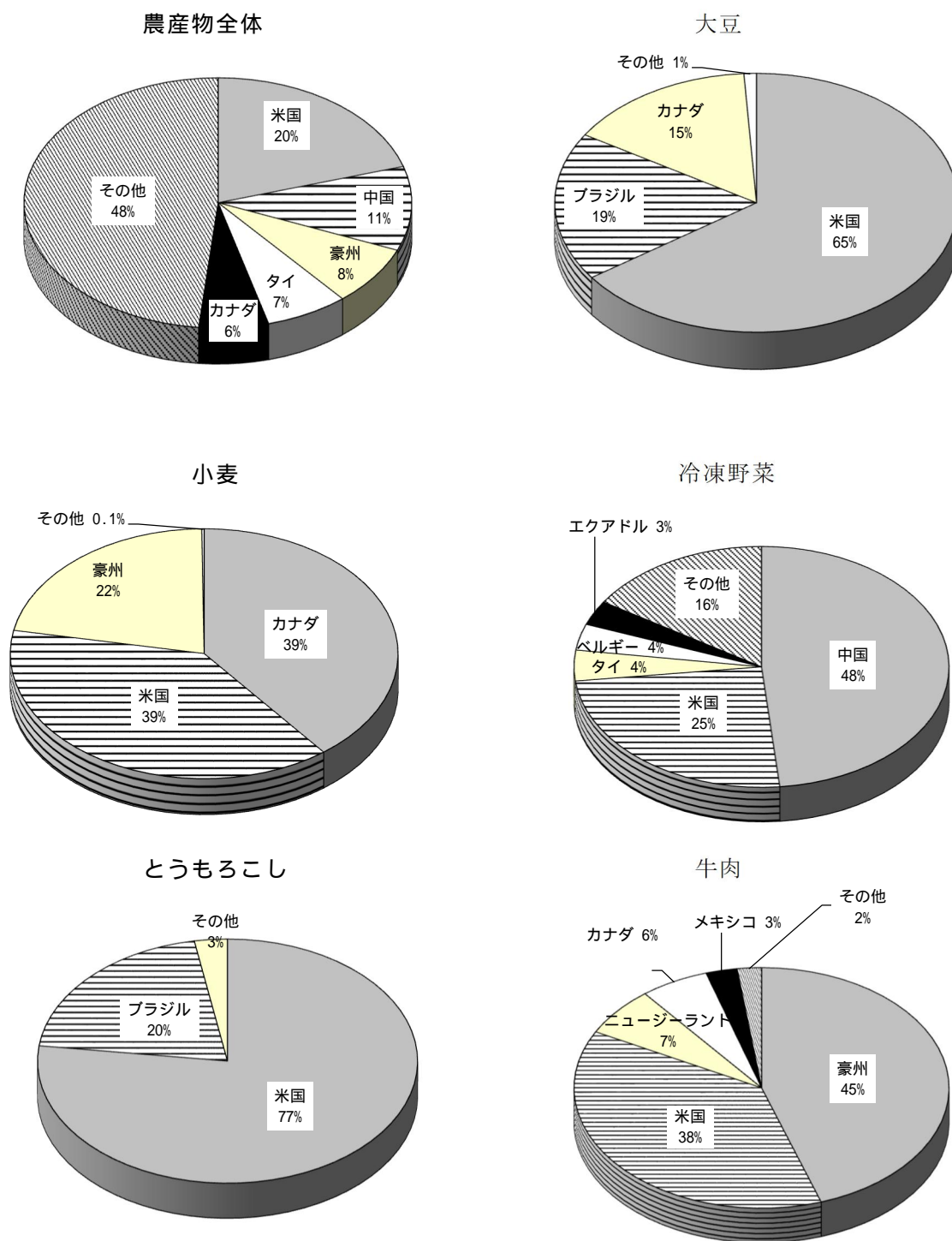
図1-1-(2) 品目別農産物輸入量の推移



(http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/houkoku_gaikyou.html)

注：穀物には、穀粉（ひき割等を含む）、穀物・穀粉の調整品は含まれない

図 1 - 1 - (3) 我が国の主要農産物の国別輸入割合 (2024 年金額ベース)



資料：農林水産省「農林水産物輸出入概況」

(<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>)

注：農産物全体には、羊毛、アルコール飲料、たばこ、天然ゴム及び綿を含むラウンドの関係で合計が 100% にならないことがある

(3) 我が国の農業を巡る国際交渉の動き

表 1 - 1 - (3) 我が国の交渉中の協定

◆: 交渉開始

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
韓国 (注1)	◆(12月~)																					
GCC (注2)	◆(9月~)																					
コロンビア	◆(12月~)																					
日中韓	◆(3月~)																					
トルコ	◆(12月~)																					
バングラデシュ	(3月~)◆																					

注1：韓国とは、2004年11月以降交渉が中断。2010年5月の日韓首脳会談において、交渉再開に向けたハイレベルの事前協議を行うことで一致。これを受けて同年9月には交渉再開に向けた第1回局長級協議、2011年5月には第2回局長級協議を開催。

注2：GCC（湾岸協力理事会）加盟国：バーレーン、クウェート、オマーン、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦。GCCとの交渉は延期中。

資料：農林水産省「経済連携交渉の状況について（農林水産関係）」（令和6年7月）

表 1 - 1 - (4) 我が国の発効済・署名済の協定

◆: 交渉 ☆: 署名 ★: 発効 △: 改正議定書署名 ▲: 改正議定書発効

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
シンガポール	★(11月)						△(3月)																
メキシコ	◆(11月~)		☆(9月)	★(4月)							△(5月)	▲(4月)											
マレーシア		◆(1月~)		★(12月)	★(7月)																		
チリ			◆(2月~)	★(3月)	★(9月)																		
タイ		◆(2月~)		★(4月)	★(11月)																		
インドネシア			◆(7月~)	★(8月)	★(7月)																		
ブルネイ			◆(6月~)	★(6月)	★(7月)																		
ASEAN全体 (AICEP)	◀◀ 物品貿易等 ▶▶				◆(6月~)	★(4月)	★(12月)				◆(10月~)							△(3月)	★(8月)				
フィリピン		◆(2月~)		★(9月)	★(12月)																		
スイス				◆(5月~)	★(2月)	★(9月)																	
ベトナム			◆(1月~)	★(12月)	★(10月)																		
インド			◆(1月~)			★(2月)	★(8月)				★(5月)												
ペルー					◆(5月~)	★(3月)																	
豪州				◆(4月~)							★(7月)	★(1月)											
モンゴル											◆(6月~)	★(2月)	★(6月)										
TPP												◆(7月~)	★(2月)										
CPTPP(注)																		◆(5月)	★(3月)	★(12月)			
EU													◆(4月~)					★(7月)	★(2月)				
米国																		(4月~)◆	★(10月)	★(1月)			
英国																		(6月~)◆	★(10月)	★(11月)			
RCEP												◆(5月~)								★(11月)	★(1月)		

注1：英国の加入議定書は2023年7月に署名、未発効（2024年7月現在）

資料：農林水産省「経済連携交渉の状況について（農林水産関係）」（令和6年7月）

2 国内的な動き

(1) 食料自給率

ア 全国の食料自給率

～ 食料自給率(カロリーベース)は前年度と同じ38% ～

表1-2-(1) 主要品目の品目別自給率の推移

(単位：%)

区分	昭和 40年度	50	60	平成 7年度	17	27	令和 元年度	2	3	4	5 (概算)	
主要品目の品目別自給率	米	95	110	107	104	95	98	97	97	98	99	99
	小麦類	28	4	14	7	14	15	16	15	17	15	17
	大豆類	25	9	8	5	7	9	7	8	8	7	8
	大豆	11	4	5	2	5	7	6	6	7	6	7
	野菜	100	99	95	85	79	80	79	80	80	79	80
	果実	90	84	77	49	41	41	38	38	39	39	38
	肉類(鯨肉を除く)	90	77	81	57	54	54	52	53	53	53	53
	牛肉	95	81	72	39	43	40	35	36	38	39	40
	鶏卵	100	97	98	96	94	96	96	97	97	97	96
	牛乳・乳製品	86	81	85	72	68	62	59	61	63	62	63
	魚介類	100	99	93	57	51	55	53	55	58	54	52
	砂糖類	31	15	33	31	34	33	34	36	36	34	25
	穀物(食用+飼料用)自給率	62	40	31	30	28	29	28	28	29	29	30
	主食用穀物自給率	80	69	69	65	61	61	61	60	61	61	63
	供給熱量ベースの総合食料自給率	73	54	53	43	40	39	38	37	38	38	38
	生産額ベースの総合食料自給率	86	83	82	74	69	66	66	67	63	58	61
飼料自給率	55	34	27	26	25	28	25	25	26	26	27	

資料：農林水産省「食料需給表」

注1：品目別自給率、穀物自給率及び主食用穀物自給率の算出は次式による。

$$\text{自給率} = \text{国内生産量} / \text{国内消費仕向量} \times 100 \text{ (重量ベース)}$$

注2：供給熱量総合食料自給率の算出は次式による。ただし、畜産物については、飼料自給率を考慮して算出している。

$$\text{自給率} = \text{国産供給熱量} / \text{国内総供給熱量} \times 100 \text{ (熱量ベース)}$$

注3：生産額ベースの総合食料自給率の算出は次式による。ただし、畜産物及び加工食品については、輸入飼料及び輸入食品原料の額を国内生産額から控除して算出している。

$$\text{自給率} = \text{食料の国内生産額} / \text{食料の国内消費仕向額} \times 100 \text{ (生産額ベース)}$$

注4：飼料自給率については、TDN(可消化養分総量)に換算した数量を用いて算出している。

表1-2-(2) PFC熱量比率の推移

(単位：%)

	昭和 40年度	50	60	平成 7年度	17	27	令和 元年度	2	3	4	5 (概算)
たんぱく質	12.2	12.7	12.7	13.3	13.1	12.9	13.6	13.8	13.7	13.7	13.7
脂質	16.2	22.8	26.1	28.1	28.9	29.6	31.9	32.5	32.2	31.4	31.4
炭水化物	71.6	64.5	61.2	58.6	58.0	57.5	54.5	53.7	54.1	54.9	54.9

資料：農林水産省「食料需給表」

イ 新潟県の食料自給率

～ 本県の食料自給率(カロリーベース)は2ポイント減少し109%～

表1-2-(3) 新潟県の食料自給率の推移

(単位：%)

	平成 12年度	17	27	令和元年度	2	3	4 (概算)
カロリーベース	92	94	105	109	111	109	117
生産額ベース	115	117	99	112	111	100	96

資料：農林水産省「都道府県別食料自給率の推移」

(2) 食料消費の動向

～ 米の消費量は前年度より減少～

ア 供給熱量の推移

表1-2-(4) 国民1人当たり供給熱量の推移

年度	国民1人・1日あたり供給栄養量				国民1人・1年あたり供給純食料						
	熱量 (kcal)	うち米 の比率 (%)	たんぱ く質(g)	うち 動物性	脂質 (g)	米 (kg)	野菜 (kg)	果実 (kg)	肉類 (kg)	牛乳・ 乳製品 (kg)	
昭和40年度	2,458.7	44.3	75.0	25.9	44.3	111.7	108.1	28.5	9.2	37.5	
50	2,518.3	34.0	80.3	35.0	63.9	88.0	110.7	42.5	17.9	53.6	
60	2,596.5	28.0	82.1	41.2	75.4	74.6	111.7	38.2	22.9	70.6	
平成 7年度	2,653.8	24.9	87.9	48.3	82.7	67.8	106.2	42.2	28.5	91.2	
17	2,572.8	23.3	84.0	46.2	82.8	61.4	96.3	43.1	28.5	91.8	
27	2,416.1	22.1	77.7	43.1	79.2	54.6	90.4	34.9	30.7	91.1	
令和元年度	2,332.9	21.3	79.4	44.7	82.6	53.1	89.9	34.0	33.5	95.2	
2	2,270.0	20.9	78.0	43.8	81.9	50.8	89.1	34.1	33.5	93.7	
3	2,265.7	21.3	77.6	43.6	81.0	51.4	88.1	32.4	34.0	94.4	
4	2,252.4	21.1	77.0	42.8	78.6	50.9	87.8	33.3	34.0	93.9	
5 (概算値)	2,202.9	21.7	75.4	41.9	76.7	51.1	84.6	31.3	33.9	90.1	
増 減 年 率 (%)	50/40	0.2	1.0	0.7	3.5	4.4	2.1	0.2	4.9	9.5	4.3
	60/50	0.3	0.6	0.2	1.8	1.8	1.5	0.1	1.0	2.8	3.2
	7/60	0.2	0.3	0.7	1.7	1.0	0.9	0.5	1.0	2.4	2.9
	17/7	0.3	0.2	0.4	0.4	0.0	0.9	0.9	0.2	0.0	0.1
	27/17	6.1	5.2	7.5	6.7	4.3	11.1	6.1	19.0	7.7	0.8

資料：農林水産省「食料需給表」、五訂日本食品標準成分表の公表により昭和60年度まで改訂。

注1：「純食料」とは、通常廃棄される部分を除いた、人間の消費に直接利用可能な食料の形態の数量を表している。

注2：令和元年度以降の供給熱量は、「日本食品標準成分表2020(八丁)」を参照しているが、単位熱量の算定方法が大幅に改定されているため、それ以前と比較する場合は留意されたい。

イ 食料消費支出

表1 - 2 - (5) 1世帯当たり1か月間の食料費支出（二人以上の世帯、全国）

（単位：円）

年	総支出費	食料費	主食費		副食費	嗜好品費		外食費	
			うち米類	うち調理食品		うち調理食品	うち調理食品		
昭和55年	230,568	66,932	9,915	5,822	719	35,437	3,158	13,104	8,467
60	273,114	73,735	11,065	6,233	1,075	37,825	3,738	14,419	10,427
平成2年	311,174	78,956	10,946	5,144	1,825	39,746	4,588	15,916	12,349
7	329,062	77,886	11,076	4,331	2,528	38,610	4,806	15,559	12,643
12	317,133	73,844	10,399	3,291	3,080	35,924	4,883	15,074	12,448
17	300,531	68,699	9,719	2,640	3,265	32,992	4,863	14,490	11,498
22	290,244	67,563	9,649	2,276	3,276	31,983	4,735	14,523	11,410
29	283,027	72,866	10,125	1,885	3,982	35,137	5,653	15,701	11,902
30	287,315	73,977	10,360	1,948	4,094	35,308	5,822	16,063	12,247
令和元年	293,379	75,258	10,699	1,857	4,354	35,055	6,043	16,778	12,726
2	277,926	76,440	11,160	1,929	4,490	37,843	6,266	17,848	9,587
3	279,024	75,761	11,191	1,763	4,802	37,131	6,561	18,058	9,380
4	290,865	77,474	11,367	1,592	5,024	36,933	6,721	18,294	10,881
5	293,997	81,738	11,826	1,632	5,275	38,135	7,033	19,125	12,653
対R4年比	101	106	104	103	105	103	105	105	116
対S55年比	128	122	119	28	734	108	223	146	149

資料：総務省「家計調査年報」

注：「家計調査年報」の「穀類、主食的調理食品」を主食、「魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海草、油脂・調味料、調理食品（主食的調理品を除く）」を副食品、「果物、菓子類、飲料、酒類」を嗜好品とし、「外食」は外食として算出

(3) 収入減少影響緩和対策の取組状況

ア 申請数

～本県の令和6年産加入申請数6,509は、全国の13%を占める～

表1-2-(6) 収入減少影響緩和対策の加入申請状況

(単位:申請数)

	平成26年産	平成27年産	平成28年産	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産	令和5年産	令和6年産
全国計	70,573	112,089	109,533	105,884	101,304	88,209	78,038	68,213	59,815	54,161	48,964
認定農業者	66,627	107,056	104,855	101,557	97,310	84,552	74,676	65,022	56,747	51,218	46,209
集落営農組織	3,946	4,548	4,080	3,664	3,354	3,170	2,994	2,898	2,808	2,701	2,547
認定新規就農者		485	598	663	640	487	368	293	260	242	208
うち新潟県	9,108	12,794	12,661	12,382	11,916	11,047	9,930	8,735	7,800	7,128	6,509
	13%	11%	12%	12%	12%	13%	13%	13%	13%	13%	13%
認定農業者	8,993	12,623	12,473	12,181	11,714	10,852	9,764	8,574	7,647	6,981	6,370
	13%	12%	12%	12%	12%	13%	13%	13%	13%	14%	14%
集落営農組織	115	136	141	143	142	139	125	127	121	118	115
	3%	3%	3%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	5%
認定新規就農者		35	47	58	60	56	41	34	32	29	24
		7%	8%	9%	9%	11%	11%	12%	12%	12%	12%

出典：農林水産省（収入減少影響緩和対策の公表値）

注：新潟県の下段は全国に対する割合を示す

イ 作物別の加入面積（作付予定）

～本県の令和6年産加入面積（作付予定）37,971haは、全国の7%を占める～

表1-2-(7) 収入減少影響緩和対策の作物別加入状況

(単位:ha、%)

	平成26年産	平成27年産	平成28年産	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産	令和5年産	令和6年産
全国	779,518	910,168	920,972	923,547	933,581	817,596	763,654	655,688	574,689	539,479	560,947
米	449,519	550,037	553,252	557,312	570,687	498,822	464,127	379,026	315,990	292,085	271,882
麦	229,199	242,875	243,264	240,755	240,150	215,752	205,286	190,881	179,476	171,916	164,054
大豆	100,800	117,256	124,456	125,479	122,744	103,022	94,241	85,781	79,223	75,478	71,555
うち新潟県	52,186	60,527	60,694	61,431	64,306	62,481	59,951	47,896	42,328	40,812	37,971
	7%	7%	7%	7%	7%	8%	8%	7%	7%	8%	7%
米	47,639	55,848	56,213	56,608	59,925	58,723	56,630	45,238	40,041	38,619	35,893
	11%	10%	10%	10%	11%	12%	12%	12%	13%	13%	13%
麦	205	218	232	256	192	203	183	121	95	105	140
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
大豆	4,342	4,461	4,249	4,567	4,189	3,555	3,138	2,538	2,193	2,088	1,937
	4%	4%	3%	4%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%

出典：農林水産省（てん菜、でん粉原料用ばれいしょを除く）

（収入減少影響緩和対策の公表値）

注：新潟県の下段は全国に対する割合を示す